○唐松権現の奮戦

源義家公が、安日髄彦の末裔安倍貞任を征し賜えるとき、数日の戦にて乗馬がひどく疲れ進退意のままにならず、数多くの敵兵に押寄せられ、命もあやふくみえた。そのとき忽然と一勇士が現れ、敵を四方に追い散らし、その難を救つた。この勇士こそ唐松権現であつたという。

戊辰の役の境の合戦の際も、協和村落合の正松外一名が唐松権現の御乗りになつた神馬を引き、戦地を駆けまわり賊兵を退けたという。戊辰の役の際は、太平山の三吉さんが大砲の弾丸を両手にかかえて奮戦したともいう。ただし、その姿は味方には見えず、賊軍にのみみえたという。

（荒　川）